

みなみかたいせき
南方遺跡

(支援センター)

発掘調査現地説明会 資料

岡山市教育委員会

日時:2009年2月7日(土)10:00~

場所:岡山市南方一丁目3-30

はじめに

岡山市教育委員会では子育て支援センター建設事業に伴い、昨年11月から発掘調査を行ってきましたが、地元のみな様をはじめ多くの方々のご協力により調査の終了が近づきましたので、これまでに見つかった遺構や遺物を公開するため、現地説明会を開くこととなりました。

南方遺跡の概要

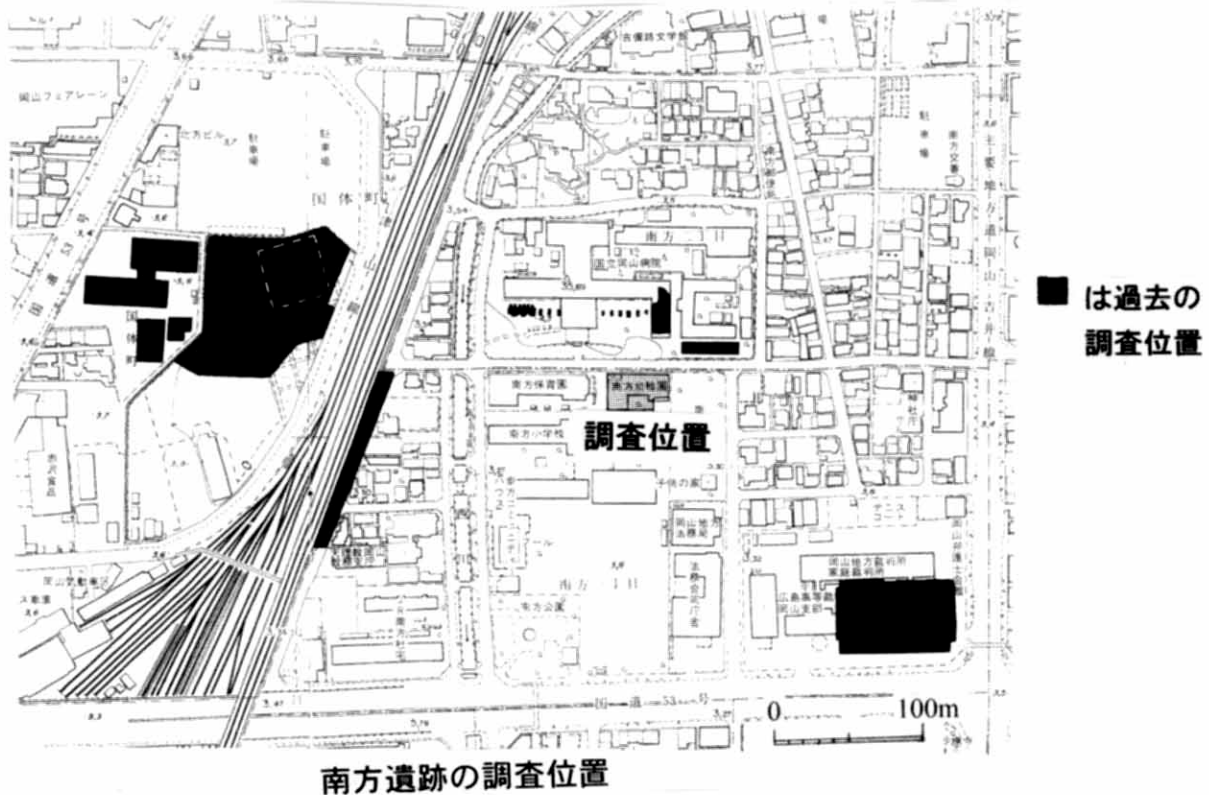
南方遺跡は旭川右岸平野に形成された微高地上^{びこうち}に位置している弥生時代中期(約2000年前)を中心とする大規模な集落遺跡で、戦前から土器や石器が出土する遺跡として知られており、出土土器は瀬戸内海東部地域での弥生時代中期の標準資料とされています。1959年には当時の国立岡山病院建設工事で多量の遺物が見つかったのをはじめ、その後、山陽新幹線建設工事に伴う市道部分の調査や国立岡山病院構内、国体町でのマンションや病院施設建設工事に伴い調査が行われており、最近では裁判所建設や旧・国立病院の整備事業等で発



遺跡位置図 (S=1/10000)

掘調査が行われています。

これまでに見つかっている主な遺構は弥生時代前期から中期の竪穴住居、土壇、柱穴群、土壇墓、土器棺墓、溝のほか弥生時代後期の袋状土壇群、古墳時代前期の竪穴住居、土壇、柱穴群などです。特に弥生時代中期の遺構密度が高く、多量の土器類・石器類が出土しており国体町での調査では大量の木製品や石器が未製品とともに出土しています。



調査の成果

調査区の南半は弥生時代中・後期から古墳時代後期の湿地状の堆積が検出され畦などは見つかりませんが水田が広がっていることも考えられます。また調査区の北半はしっかりとした微高地が検出され、弥生時代前期から中期にかけての柱穴群、土壇などが見つかりました。調査区の中央部では微高地と低地を区画するように弥生時代中期から古墳時代にかけての各時期の溝が北西から南東方向に流れており、本調査地点が南方遺跡の集落域の南端部に位置していることが確認できました。

・弥生時代前期

いまのところ確実なものは小さな土壇と断続的に見つかった溝状遺構のみで、土器は甕が出土しています。(SD214 P317 ほか)

・弥生時代中期

微高地部分の全面にわたって土壇、柱穴、溝などが見つかっており、この遺跡の最も栄えた時期と言えます。微高地の縁辺部から上面にかけては多数の

溝が掘られており、多量の土器が出土します。また、土壌のなかには貯蔵穴と見られる SK406 や SK407 のような大型のものもあります。出土遺物は壺・甕・高坏などの土器類や石器類では石鏃・石斧・石包丁・石錘のほか石斧や環状石斧の未製品などが出土しています。

・弥生時代後期

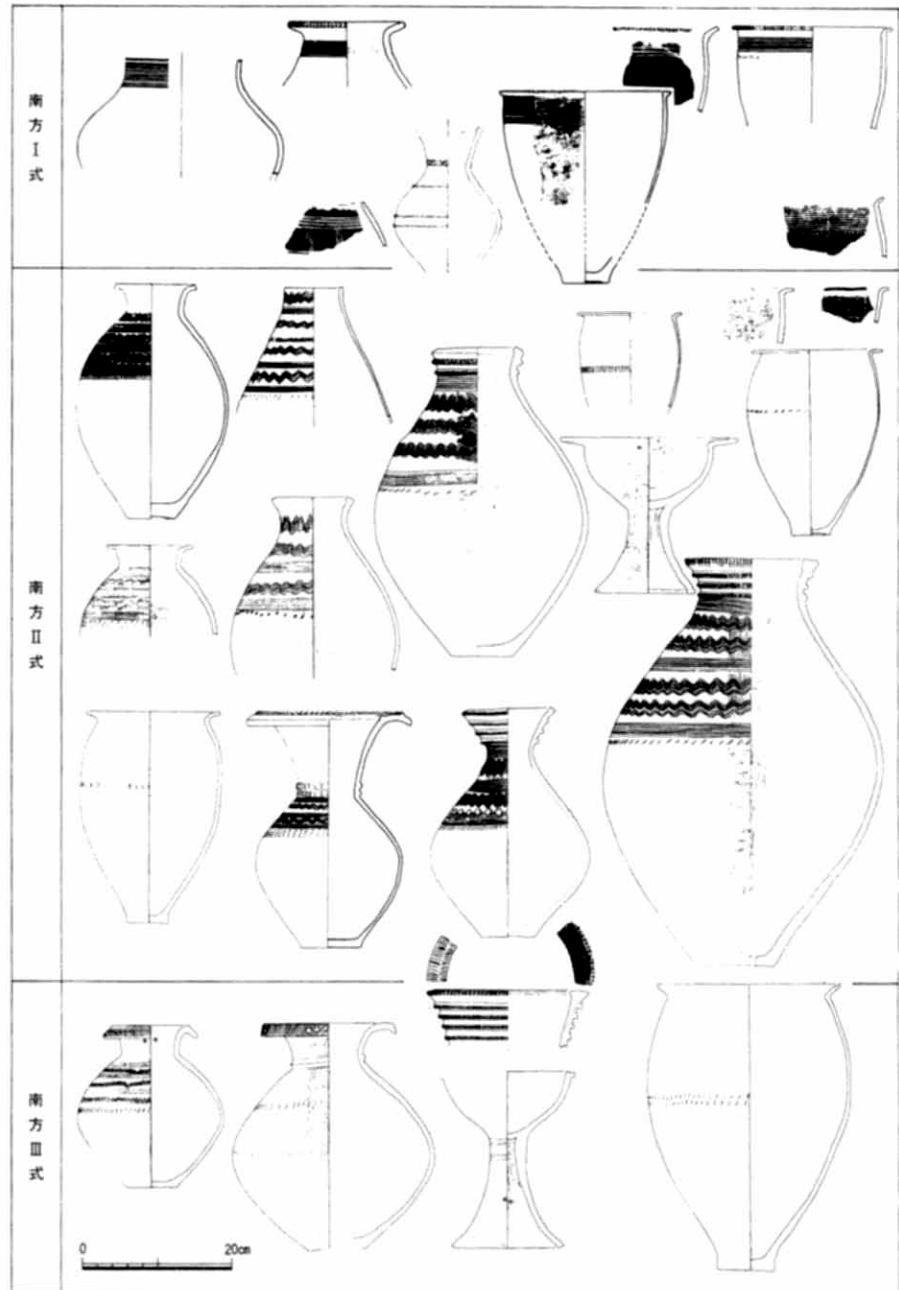
溝（SD213）が見つっていますが、その他の遺構は見つかりません。出土した土器は壺・甕・高坏・鉢などです。

・古墳時代

調査区内では古墳時代前期の土壌が検出されています。また調査区南半の低位部では須恵器や銅製の耳環などが出土しています。

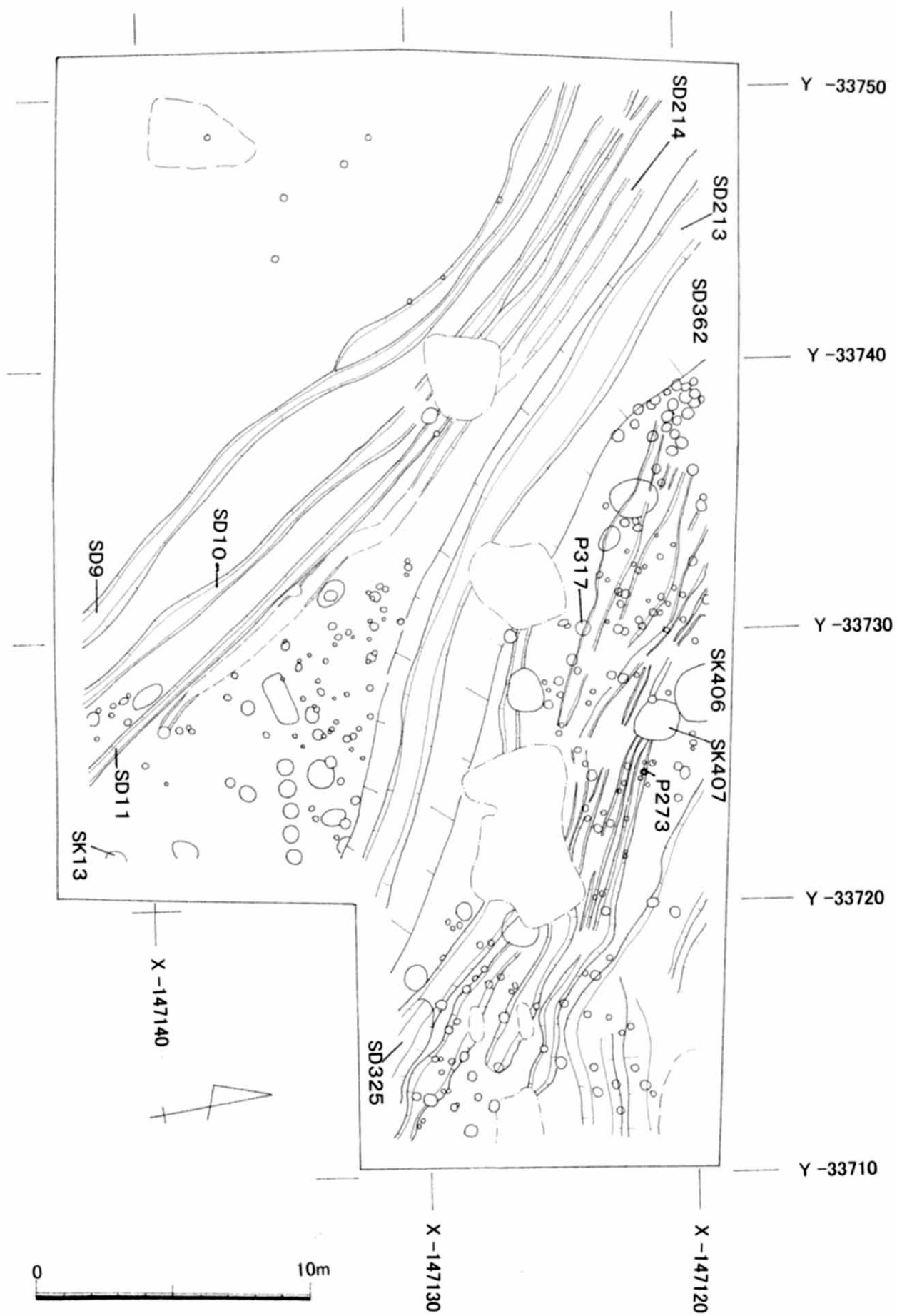
弥生時代前期

中期



南方遺跡の弥生土器（前期～中期）

『岡山県史考古資料編』より



南方遺跡(支援センター)弥生時代遺構面